



園部 増治 議員

### 安心安全なまちづくりについて

**問** 東日本大震災から丸 7 年になるが、歳月が流れて災害の記憶が薄らいでいるという報道もある。災害はいつ、どんな形で我々を襲ってくるかわからないので日ごろから災害に対する備えをしておく必要がある。安心安全なまちづくりは市長公約の一つでもあるので次の点について伺う。①災害時における住民への伝達方法について②自主防災組織の育成について③古河駅

西口地区への消防署の配置について④大堤排水路の整備について

**答（生活安全部長）** ①災害時の情報伝達は、防災行政無線、緊急速報メール、市ホームページ等があり、今後もあらゆる可能性を模索しながら市民の安全確保に努めたい。②自主防災組織率の向上を図るため、自主防災組織のPRに努めており、また補助事業として、組織の結成の費用に限度額 10 万円、結成時の資機材の整備に対象経費 2 分の 1 で限度額 40 万円、毎年の活動運営補助に、対象経費 2 分の 1 で限度額 3 万円の補助を行っている。活動内容としては普通救命講習や避難誘導訓練、防災訓練等を実施し、自助、共

助に直結する訓練活動を行っている。

③古河駅西口地区における常備消防施設に関わる要望書を茨城西南地方広域市町村圏事務組合に提出し、今後本格的な協議を進めていきたい。

**答（都市建設部長）** ④土砂等のしゅんせつを予定している。台風等不測の事態には、その都度対応し、適切な維持管理に努めていく。

### ＜その他の質問＞

#### ・都市基盤整備について



茨城西南広域消防本部



落合 康之 議員

### 古河駅東部土地区画整理事業について

**問** 針谷市長の考えるこの土地の将来像はどのようなものか。具体的に何を行おうとしているのか。先日来、針谷市長は文化センターの必要性を認める答弁をしている。しかし、起債残額はあと 105 億円だ。ここに文化施設を古河市単独で建設すると他の先導的プロジェクト、特に 50 億円はかかると言われる南古河駅はできない事になる。県立であれば、古河市の費用負

担は限りなく少なく済む。茨城県知事も新しい総合計画を作り直しているようなので、太いパイプでつながる針谷市長からぜひ、ご連絡してみることを提案する。また、合併特例債の再延長手続きについての具体的な計画があるのか伺う。

開発の進む  
古河駅東部土地区画整理事業

**答（市長）** 本事業には課題もあるが、早期保留地処分による積極的な事業費の確保や、道路線形の見直しによる補償費の削減など、事業費の見直しに取り組み、一刻も早い事業完了を目指

したい。財源については国庫補助金、茨城県からの県道整備費への補助金など、国、県より整備費を支援いただいている。今後とも国庫補助金の拡大の可能性を探り、可能な限り市の支出を抑えた事業進捗に努めたい。また、県との連携について、例えば県が県民文化ホールの分所をどこかに建てるとのことであれば手を挙げるが、現状はない。合併特例債については、本市の活力と住民福祉の向上を目的に、真に必要な施策を取捨選択し、再延長をすべきか否かについて慎重に議論を積み重ね、よりよい対応をとっていきたい。

### ＜その他の質問＞

#### ・施政方針について